

GK情報レポート

【2010年発行】

vol. 24

春号

発行者

権田金属工業株式会社 営業部

〒252-0212

神奈川県相模原市中央区宮下 1-1-16

電話 042-700-0221

FAX 042-700-0660

E-mail: eigyo@gondametal.co.jp

<http://www.gondametal.co.jp>

Contents

1. テクニカルショウヨコハマ 2010 出展
2. マグネシウム合金 AZ61 実証
3. 銅ブスバーのご紹介
4. GK ギャラリー 大学・大学院生工場見学、新入社員紹介
5. GK 沿革 (22 回) 『昭和 58 年の権田金属工業』
6. 相場情報 『2010 年第 2 四半期見通し』

皆様でご覧下さい。

回 覧 印										
-------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

※バックナンバー (Vol.1~23) をご用意しております。ご希望の方は当社営業部までお気軽にお問い合わせ下さい

権田金属工業株式会社

1. テクニカルショウヨコハマ 2010 出展

場所：パシフィコ横浜 展示ホールC・D

日時：2010年2月3日(水)、4日(木)、5日(金)

主催：財団法人神奈川産業振興センター、社団法人横浜市工業会連合会
神奈川県、横浜市

後援：経済産業省関東経済産業局、社団法人ビジネス機械・情報システム
産業協会、社団法人日本経営協会、川崎市、平塚市、相模原市 他

総来場者数：約3万人

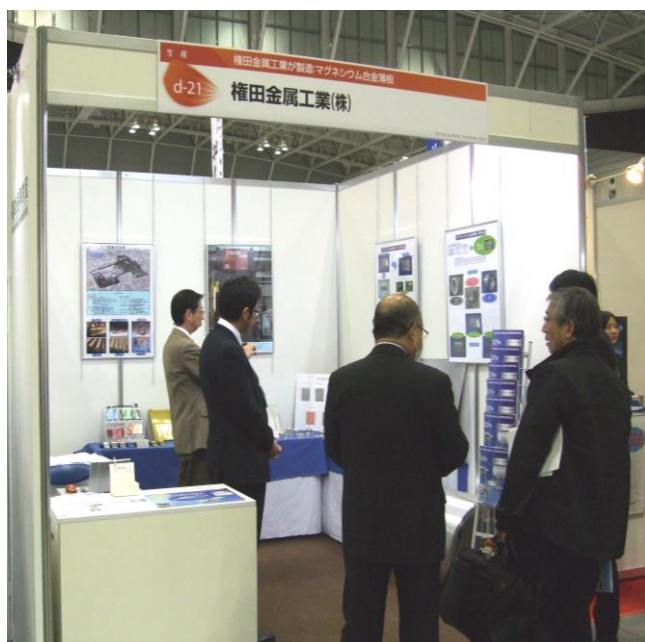
テクニカルショウヨコハマは神奈川県内最大の工業技術・製品に関する総合見本市として、最先端の技術・製品を展示するものです。業界の枠を超えた情報を発信し、交流を深めることにより、技術・製品の販路拡大、地域産業経済の振興及び発展を図ることを目的として行なわれ、今回で31回目となります。

当社はマグネシウム合金 AZ61 薄板のプレス成形加工技術を確立するため、2009年10月8日に「ものづくり中小企業製品開発等支援補助金」の支給決定を受け、サーボプレス機を導入しました。今回の展示会ではサーボプレス機によるマグネシウム合金 AZ61 のパソコン・携帯電話の筐体サンプルやリフローパレット、板幅 600mm のコイル材、カップリングテスト材なども展示しました。

当社のブースには3日間で約200名の方々が訪れ、マグネシウムの製造方法やプレス成形性、加工性、表面処理などについての質問が多く寄せられました。

また、専門的な質問も多く次世代の素材として、マグネシウムに対する関心や期待の高さが伺えた展示会となりました。

記者 高安・工藤



2. マグネシウム合金 AZ61 実証

新設備 サーボプレス機導入

近年、部品形状の多様化が急速に進み高精度かつ効率良く生産することや騒音・振動など作業効率の改善などに対するプレス機が求められ、開発されたのがサーボプレス機です。サーボプレスとは、型抜部の駆動をサーボモーターで制御し加圧する方式のプレス機です。

当社は2009年10月8日に「ものづくり中小企業製品開発等支援補助金」の支給決定を受け、アマダ社製 サーボプレス機を導入致しました。投資額の3分の2を「ものづくり中小企業製品開発等支援補助金」を充てています。

- ・ストレートサイドフレーム型電動サーボプレス機
- ・圧力能力：150 t
- ・機械高さ：3,435mm
- ・機械質量：約20 t



一般的にマグネシウム合金はプレス加工しづらいと言われています。当社ではマグネシウム合金AZ61がプレス成形性に適した素材であることを実証するため、サーボプレス機を導入致しました。パソコンや携帯電話の筐体のプレス加工テストを始め、深絞りプレス加工のテストなどを行なっています。下記写真（左）はパソコン筐体サンプルです。写真（右）は深絞りサンプルです。加工が難しいと言われている内径R 1mmが問題なく絞ることが出来ました。



パソコン筐体（板厚 0.6mm #320）

深絞りテスト

記者 高安・工藤

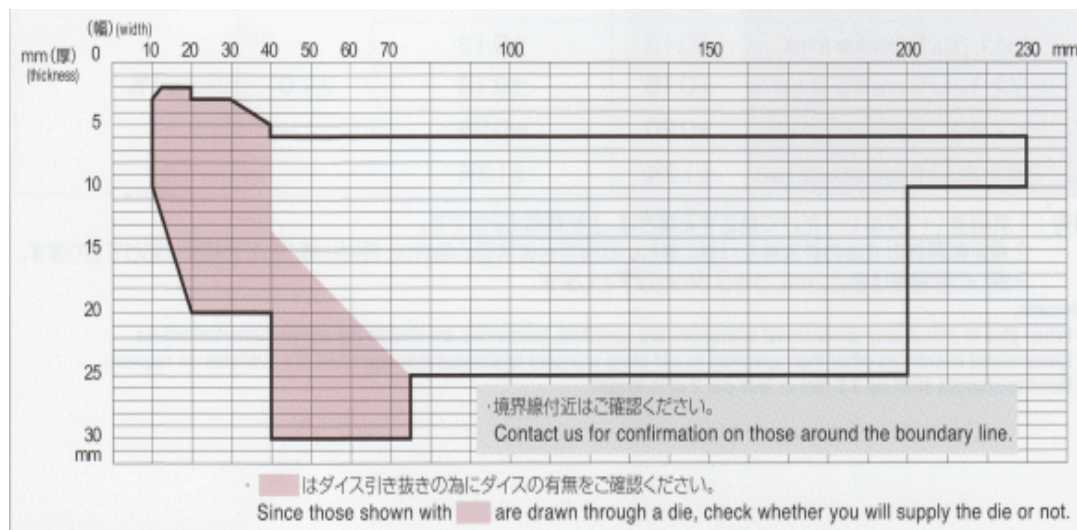
3. 権田金属工業製銅ブスバーの特徴

① 寸法

当社では冷間ロールで銅ブスバーを製造しているサイズがあります。冷間ロールは、厚みと幅を自由に設定出来る事が最大の特徴で幅が 100 mmや 150 mm という様なレギュラーサイズだけでなく、101.6 mm等のインチサイズや 141 mm等の特殊な寸法でも金型を新規に作らずに銅ブスバーを製造する事が出来ます。定期的に銅板の切板を購入していたお客様に銅ブスバーの特殊寸法への切り替えをご提案した所、数多く採用されています。最近では、真空装置関連業界からも銅は注目されています。またヒートシンクの素材としても銅素材は熱伝導率の高さからよく利用されています。銅の熱伝導率はアルミの約 1.7 倍も高いからです。これらの業界からは特殊な厚みや幅、長さを指定される事があります。この様なお客様にも当社では冷間ロールを活用して無酸素銅ブスバーをご提供して、大変喜ばれております。

② 銅コイル材・長尺ブスバー

銅ブスバーの製造ラインで、銅のコイル材の材料を製造し、引き抜きによって銅コイル材を製造しております。コイル材は、5,000 mmを定尺とするブスバーと違い材料が長尺ですので連続して作業出来る為に、プレス加工業者様等でよく使われています。当社では連続押出機で、最大 2 tまでのコイル材が製造出来ます。巻き方も重ね巻きやドラム巻きの対応が可能ですので、是非ご相談下さい。当社の銅コイル材は歩留まりや生産性の向上を目的として様々なユーザー様に採用されて好評を得ています。



4. GK ギャラリー

大学生・大学院生の皆さんが当社を工場見学

2010年2月10日（水）地元大学在學生や地元在住大学生が、地元での就職を考えるきっかけとして『地元のいい企業を訪ねる』1泊2日の見学ツアーが企画・実施されました。訪問する企業には、権田金属工業(株)他7社が選ばれました。見学ツアーでは、当社に9名の大学生・大学院生の皆さんが工場見学に訪れました。この見学ツアーは、(株)さがみはら産業創造センターがモノづくり推進会議（事務局：(株)日刊工業新聞社）、相模原市、相模原・町田大学地域コンソーシアムと共催で実施したもので、ものづくりの現場を見学し、経営者の話を直接聞き、地元企業への就職に役立てようとのコンセプトで企画されたものです。

当社での工場見学は、会社概要説明（総務部長 山本）～マグネシウム合金薄板の解析説明（品質管理課 畑）～銅の殺菌パワーの説明（総務部 野中）～2班に分かれての工場見学という流れで実施しました。

大学生・大学院生の皆さんは、実際の工場見学は初めての様子で、銅リングをNCマシンにセットするロボットの動き、1,000トプレスや大形圧延機他が放つ大きな音に興味津々の様子でした。将来の日本のものづくり産業の担おうという意欲ある人々が、増えてくれればと思います。

工場見学終了後、当社の社長 権田より企業・従業員・ものづくり他について直接大学生・大学院生にその考えを話しました。

まずは会社を永続的に存在させる3つの重要ポイントとして、①売りをつくること②信用を大切にすること③新しいものに挑戦することについて。

リーマンショック以降の景気低迷に対する日本の若者の不安感に触れて、「日本には、これからも成長し続ける潜在的な力がある。そのためには世界でも稀に見る豊かさ、自由、そして安全といった価値観を是非大切にしたい」

最後に今の大学生・大学院生に望むことは「とにかく勉強して自らを磨いて欲しい、会社に貢献する覚悟を持って欲しい、年相応の素直さを持つ人になって欲しい。」などと話しました。



ロボットの工場見学



社長 権田と質疑応答

企業見学をした内容を大学生・大学院生が冊子にまとめ、大学や高等専門学校他へ配布されます。また大学生・大学院生の活動（企業見学、冊子編集等）が『日刊工業新聞』（3/24）や『モノづくり推進会議・学生むけ WEB』（読売新聞 3/27）に掲載されました。

＊ 株式会社さがみはら産業創造センター とは

Sagamihara Incubation Center Ltd. （略称：SIC）

設立：1999年4月20日

資本金：23億9,450万円

出資者：相模原市・独立行政法人中小企業基盤整備機構・相模原商工会議所
（株）横浜銀行・（株）三菱東京UFJ銀行・（株）八千代銀行

三菱重工業（株）・日本テクノ（株）・権田金属工業（株） 他

新規創業、新分野への進出を図る人を支援し、新しい産業を創造する拠点であるインキュベーションセンターとして活動しています。

「相模原の大地に新しい風を起し、産業の息吹を育み新しいビジネスを目指す」ことを目標に、地域企業の課題解決、企業間連携による研究会事業、投資事業、人材育成などの教育事業に取り組み、地域経済のさらなる活性化を進めています。

記者 吉田

GKギャラリー：新入社員紹介

当社では将来の更なる発展の為に、毎年新入社員を採用しています。

2008年のリーマン・ショック以降、なかなか経済状況も好転しておりませんが、今年は大卒1名、高専2名の厳選した3名の新入社員を迎えました。

一日も早く仕事に慣れ、ゆくゆくは当社製造部を引っ張っていく人材になって欲しいと思っております。

新入社員は現在製造部の各部署の他、総務部・営業部で約3週間の研修中です。研修終了後は製造部に配属される予定です。



記者 高橋

5. 沿革

昭和 58 年 11 月、権田忠志社長が満 65 歳になったのに伴い、先に申し合わせたとおり代表取締役社長の座を退いて取締役相談役に転じました。

入れ替わって代表取締役社長に就任したのは長男権田源太郎で、権田家では五代目の世継ぎになり、社長として三代目になります。

三代目は昭和 48 年 3 月に慶應義塾大学経済学部を卒業し翌 4 月に商社のトーメンに入社、昭和 52 年 10 月に権田金属工業(株)に入社し営業部門を中心に修行を重ね社長に昇格しました。この時、徳武雅英が代表取締役会長に選任されています。その権田源太郎社長が最初に取り組んだのが二代目社長時代に策定された設備等更新計画の仕上げであります。昭和 59 年 9 月から着手された工事は完全自動化圧延工場 (500 坪)、製品倉庫 (160 坪)、総務・製造事務所 (198 坪)、食堂・更衣室・浴場 (135 坪) で、これらは昭和 62 年 12 月までに完成しました。このうち圧延工場の新設はそれまで 8 人から 9 人があたっていた作業を 4 人から 5 人に半減し効率アップを目指すためのもので、設計の中心はロール径を大きくして従来の三段式ロール圧延機を二段式可逆圧延機に切り換えることでした。この建築費および機械・電気設備に約 5 億円を要し、このほか総務・製造事務所などの建築費を含めると約 6 億円を要しましたが、この資金は世田谷区桜ヶ丘の土地 400 坪を権田総業に売却した代金で賄いました。完成したコンピューター自動制御による新圧延機の試運転は昭和 62 年 3 月 4 日でしたが、小さな事故が多発、正常運転が出来るようになったのは 3, 4 ヶ月後でした。しかし、作業員は 3 人から 4 人で済むようになり、今では生産工場としての拠点を担っています。さらに昭和 63 年初めからはアルミリング製造計画に着手し、アルミ加熱炉、切断機、三方締正面盤などを設備、平成 1 年 6 月から本格的製造を始めました。一方で平成 1 年 9 月には東京都世田谷区にあった東京営業所を渋谷区東 3 丁目 22 番 8 号に移転しました。

6. 相場情報

1、電気銅建値推移

10,1 月・・・730 円スタート (1 月平均 730.0 円)

10,2 月・・・660 円スタート (2 月平均 672.6 円)

10,3 月・・・680 円スタート (3 月平均 710.9 円)

10,4 月・・・770 円スタート

2、LME在庫状況及び需給状況

LME指定倉庫在庫は2010年1月初旬50万トンで推移していたが、徐々に在庫は増え続け、3月4日には55万トンを超えた。この在庫量は世界の銅消費量の約10日分に相当する。その後減少傾向となり、4月は51万トン台で推移している。需要面では2008年秋に起こったリーマン・ショックによる世界的景気悪化で、2008年の世界銅需要1,880万トンに対し、2009年の世界銅需要は1,790万トンとなった。日本銅需要も約88万トンに減少し、34年ぶりに100万トンを割り込んだ。2010年の世界銅需要予測は、約1,770万トンである。日本の銅需要予測は約90万トンと09年比横這いの状況されている。旺盛な銅需要を示していた中国の2010年銅需要予測は09年比約90万トン減の約520万トンとされている。中国の銅需要にも、陰りが見えてきている。

供給面では3月27日未明に世界の銅地金生産量の30%以上を占めているチリで大規模地震が発生したことにより、複数の銅鉱山と精錬所が操業を一時停止した。鉱石供給への警戒感から銅価の急騰が見られたが、銅鉱山には直接的な影響がないことが明らかになると供給不安は払拭され落ち着きを取り戻した。中国の需要減少を欧米等の需要でカバーすると予想され、需要と供給は均衡しそうだ。

3、為替の見通し

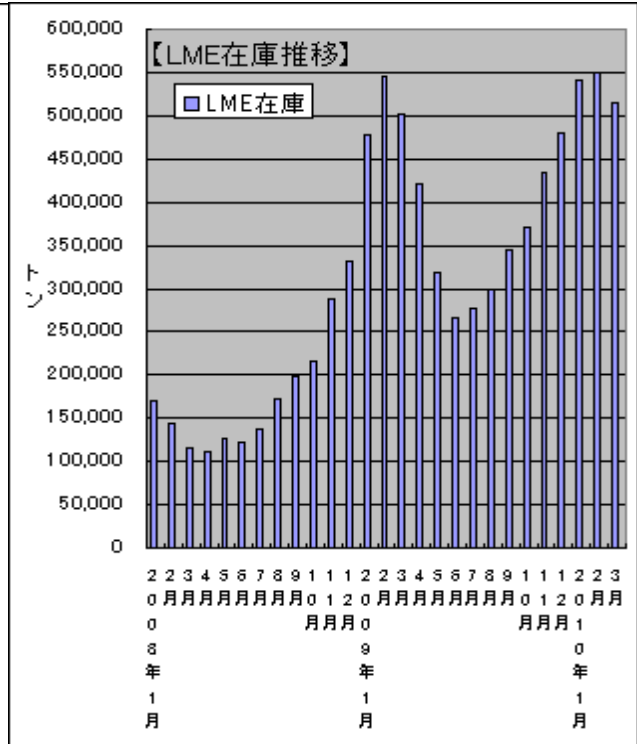
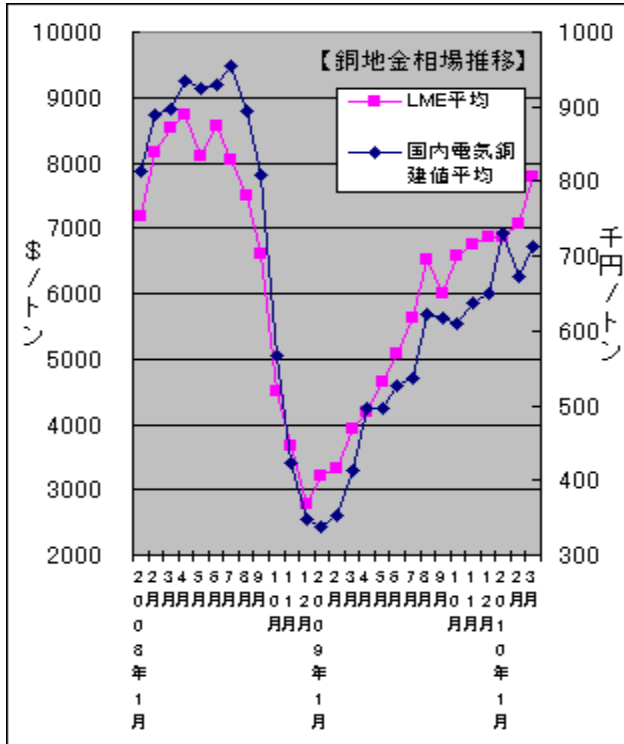
1月は中国の金融引き締め懸念や欧州諸国の経済不安の影響から、円はドルに対して堅調に推移した。

その後オバマ米大統領が新金融規制案を公表すると先行き不透明感から世界的に株価が下落、為替市場でもリスク回避姿勢が強まり一時的に円買いが進んだ。またギリシャの金融危機問題は欧州域内でのギリシャ支援が難しく、ユーロの信認に不安感が広がるとの見方から、円は対ユーロで買われやすい状況となっている。一方、米雇用情勢の改善期待を背景にドル買い、円売り圧力が強まっている。日米金利差を意識したドル買いが進む見方が強く、今後は円安ドル高基調で推移しそうである。

4、相場の見通しと予測

4月初めに発表された米雇用統計が追い風となり、投機資金の活性化がより一層強くなっている。米株式市場での株価の上昇、原油・金・銅といった国際金融商品も上層相場となっている。LME銅相場では、一時的とはいえ08年8月1日以来のLME 8,009.75ドル/tの高値を付けた。

中国の金融引き締め観測で新興国の需要拡大予想が減退したことから、銅相場が押し戻される場面も見られるが、世界的な景気回復への期待からさらなる投機資金の流入で銅相場はLME 9,000ドル/t突破の可能性も十分考えられる。



短期予測（1M）：LME \$ 7,200～8,200
銅建値 700～830 円

為替 91～96 円

長期予測（3M）：LME \$ 6,800～9,000
銅建値 670～930 円

為替 91～99 円

記者 工藤